

銚子の魅力を
発信するちょよ!



のい♡銚子

第47回

伝統工芸品の魅力伝えたい
加瀬稔さんの巻

お宅にも愛用の藤の枕やいすがあるちょよ? 製作する藤製品が県の伝統的工芸品に指定されている職人を直撃だちょよ。



▲「同じ物がない工芸品との縁を楽しんで。まずは気軽に見に来てください」と加瀬さん。

「藤家具は使っつうちに体に馴染んでいきます。使いながら完成するものなんです」と教えてくれたのは藤家具を製作する(有)加瀬ラタン工芸の加瀬稔さん(38)。銚子の藤製品は江戸時代に漁師が魚を入れる「びく」を作ったのが始まり。

「少し高く感じるかもしれませんがうちの藤家具は代々受け継ぐことができる家具。何年経っても修理させていただきます」

祖父が藤製品の材料屋を始め、藤家具の老舗東京山川ラタンで18歳から修業した父が藤家具の製作を始めた。自身は20歳で家業の道へ。当時から職人の後継者不足が危惧され始めていたが「好きだったから失くし

たくなかった」。

外国製の藤家具との違いはフレームの数。フレームを減らすことでデザインの自由度が増し、より軽くなる。ただ、少ないフレームで強度を出すのは難しい。まっすぐより曲線の方が強度は増すが技術が要る。職人の腕の見せどころだ。家具を作るときのこだわりは軽さ。軽ければお年寄りでもお子さんでも楽に動かせ、掃除もしやすい。触れる回数が多いほど愛着がわくと考えるからだ。工房で製作をしながら、北海道から熊本まで年間約25か所の展示会へ赴く。

「お客様の声を直接聞くことはものづくりより大事だと思っています」

求めてくれる人がいなければ、職人は生活できないし伝統は守れないから」ものづくりに妥協しない父の姿勢を受け継ぎつつ、バッグのデザインやアクセサリーなどの小物を増やし時代に合った伝統工芸の形を模索する。最近では犬吠テラステラス内に念願だったセレクトショップ「ヒーリングクラフト」をオープン。自社製品のほか全国の展示会で出会った職人たちの伝統工芸品を販売する。どれも実際に買って使い、納得した選りすぐりの品ばかり。

「買う気がなかったけど買っちゃった、の言葉が一番うれしい。作り手の気持ちや工程がわかるものを使ってほしい。工芸品の背景を話して納得して、欲しいと思ってもらえたら最高」

銚子の同世代のがんばる姿に刺激を受けている。銚子の未来は明るいと思う。

「地元の方にも観光客にも来るたびおもしろいものがあるね、と言ってもらえるように商品づくりとレイアウトを工夫して、品物をそろえて、皆さんの目を楽しませたいです」

お手入れが気になる藤家具。掃除のついでに掃除機で軽く吸う程度ではこりはほぼ防げるちょよ



▲藤製ロッキングチェア

healing craft

犬吠テラステラス1階
🕒12時~17時(土日祝日11時~)
☎(22) 5477 (有) 加瀬ラタン工芸

わんぱく登場



かのん
伊藤 夏音ちゃん
H26年9月生まれ



そうだい
吉原 壮泰ちゃん
H27年8月生まれ



にこ
笹本 花虹ちゃん
H31年1月生まれ

住所、氏名、連絡先、お子さんの名前(ふりがな)、生年月日を記入し、写真を郵送またはメールで送付ください。窓口でも受け付けます。

☎ 秘書広報課 ☎(24) 8823 (郵送)〒288-8601若宮町1-1 (メール)koho@city.choshi.lg.jp

写真
大募集!



人のうごき 令和元年9月1日現在 人口 60,666人(-100人) うち外国人住民人口 2,200人
男 29,417人(-51人) 女 31,249人(-49人) 世帯 27,266世帯(-1世帯) ※カッコは前月比
令和元年8月中の人口動態 出生 12人 死亡 90人 転入など 135人 転出など 157人